



TITLE:

# 『京都大学大学文書館研究紀要』 編集要項, 編集後記

AUTHOR(S):

西山, 伸

---

CITATION:

西山, 伸. 『京都大学大学文書館研究紀要』 編集要項, 編集後記. 京都大学大学文書館研究紀要 2005, 3: 139-140

ISSUE DATE:

2005-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/68850>

RIGHT:

### 『京都大学大学文書館研究紀要』編集要項

1. 京都大学大学文書館に、京都大学大学文書館研究紀要（以下、「研究紀要」という。）の構成および内容に関する基本的計画の立案その他編集の総括を行うため、京都大学大学文書館研究紀要編集委員会（以下、「編集委員会」という。）を置く。
2. 編集委員会に委員長を置き、大学文書館長をもってあてる。委員は大学文書館教員とする。
3. 研究紀要には、京都大学および高等教育の歴史、アーカイヴズ論等に関する論文、研究ノート、資料紹介、書評等を掲載する。
4. 論文は、400字詰原稿用紙換算で60枚以内、研究ノートは40枚以内、資料紹介は80枚以内、書評は20枚以内とする。ただし、編集委員会で特に認めた場合はその限りではない。
5. 研究紀要に執筆することができるのは、京都大学大学文書館の教職員のほか、学内外を問わず編集委員会で選任して依頼した者、執筆を希望して編集委員会で認められた者とする。
6. 原稿は原則として未発表のものに限る。

## 編集後記

『京都大学大学文書館研究紀要』第3号をお届けします。

ここ数年大学アーカイヴズは広がりを見せ始め、いくつかの大学で个性的なアーカイヴズが誕生しました。本紀要冒頭の小池氏の講演で紹介されている広島大学の事例もその一つで、大学の特性に即した形であるとともに2005年4月施行の個人情報保護法への対応も目指した意欲的な文書館です。

大学アーカイヴズは、親組織の機関としての営みを示す資料を適切に管理し、それらを広く公開していくことが基本的な使命であると考えますが、その上で様々な活動を行うことで研究・教育および大学の管理運営にとって大きな貢献が可能な施設であると言えます。当館所蔵の資料を用いた二本の論文は、その成果の一端を示しています。

当館も2003年12月には常設展「京都大学の歴史」の公開を、そして2004年4月からようやく閲覧業務を開始し、いよいよ本格的な業務を行うようになりました。読者の皆様には今後とも種々ご指導くださいますよう、よろしくお願いいたします。

(大学文書館助教授 西山 伸)

---

### 京都大学大学文書館研究紀要 第3号

---

2005(平成17)年3月25日発行

編集 京都大学大学文書館研究紀要編集委員会

発行 京都大学大学文書館

606-8501 京都市左京区吉田本町

電話 075(753)2651

印刷 ヨシダ印刷(株) 京滋営業所

〒604-8277 京都市中京区三坊西洞院町572

NOA 高松殿ビル6F

TEL(075)252-5421

---